

日本スポーツ産業の現在と発展可能性について

～PwCSportsSurvey2018 に着目して～

スポーツコミュニケーションゼミナール 1215021 潮 なおき

1. 研究動機・研究目的

日本再興計画(2016)によると、「戦後最大の名目 GDP600 兆円」の実現をめざす日本にとって、今後の生産性革命を主導する最大の鍵は、「第 4 次産業革命」という。「第 4 次産業革命」は、社会的課題を解決し、消費者の潜在的ニーズを呼び起こす、新たなビジネスを創出する。新たな「有望成長市場」として期待されている 1 つが、「スポーツの成長産業化」であり、国家戦略の一つとして位置付けられている。2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控える中、2015 年にはスポーツ庁が設置される等、国を挙げてスポーツ振興及びスポーツ産業化に力を入れている現状がある。またスポーツは、地域産業の活性化を図ることに期待を集めていて、静岡県では、スポーツ産業振興協議会が発足され、スポーツを中心としたまちづくりを行い、一定の成果をあげているという。

このように、スポーツは日本の経済的発展に大きく影響することが期待されている。したがって、本研究では、日本のスポーツ産業の成長見通しを明らかにすると共に、日本のスポーツがどのように発展していくべきか、明らかにする。

2. 研究方法

本研究では、PwC Sports Survey2018 を参考に世界のスポーツ産業の状況を読み解いた。その後結果を踏まえて、日本のスポーツ産業界の成長見通しを文献調査し、どのようなスポーツ分野を活用していくべきか明らかにした。調査項目は以下の 5 点である。①PwC Sports Survey2018 諸外国全体をみたスポーツ産業成長見通し、②スポーツ基本計画から日本のスポーツ産業の課題と目標、③スタジアム・アリーナ改革、④スポーツ経営人材の育成、⑤新たなスポーツビジネスの創出と拡大である。

3. 主な結果と考察

まず、世界のスポーツ産業は、2022 年までの市場成長期待を考えると、最も楽観的な結果が出た地域がアジアであった。また、テクノロジーの変化により、スポーツメディアも変化しつつあって、従来の TV メディアから、オンライン上でスポーツ観戦をする消費者が増えていた。それに伴い、スポンサーシップの在り方にも変化がでてきていた。

日本国内では、平成 29 年に第 2 期基本計画が策定され、中でもスポーツの成長産業化やスポーツを通じた地域の活性化、大学のスポーツ資源の活用などが盛り込まれていた。具体的な施策として、①スタジアム・アリーナ改革、②スポーツ経営人材の育成・活用、③新たなスポーツビジネスの創出・拡大が挙げられていた。

4. 結論

今後の日本のスポーツ発展には、①スタジアム・アリーナ改、②スポーツ経営人材の育成・活用、③新たなスポーツビジネスの創出・拡大の3点が重要であるとわかった。例えば、①のスタジアム・アリーナ改革においては、今後の国際的なスポーツ競技大会のために建設したスタジアム・アリーナを無駄にすることなく、「スマート・ベニュー®」の考え方を取り入れながら、価値ある遺産として残していくことが大切である。また、その施設の運営やプロスポーツチームの関わり方も重要で、スポーツ経営人材の育成や活用も忘れてはならない。さらに、既存のスポーツビジネスにとらわれることなく、消費行動の変化に伴って、スポーツメディアやコンテンツの在り方も柔軟に対応していく必要があり、中でも世界的に注目を集めているeスポーツの発展は、日本のスポーツ産業全体の成長に大きな影響を与える。個々人の細かいデータとつながりを持てる現代だからこそ、進化するデジタル革新技術とうまく共存しながら、スポーツを発展させていくことができる。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を進めるにあたり、熱心にご指導、ご鞭撻を頂いた伊藤先生に深く感謝致します。ゼミナールのみならず、1年次に参加したスポーツビジネス体験ツアーのころから、自分の将来に不安を感じていた私に沢山のアドバイスをしていただきました。先生から「なおきは大丈夫、やりたいことさえはっきりすれば大丈夫」と言われる度に、励まされ、自分を見つめなおすきっかけになりました。進路は直接スポーツと関りのある企業ではありませんが、マーケティングというものを一から学び、いつかスポーツ関連の仕事にも携わりたいと考えています。スポーツ業界において、女性でご活躍される伊藤先生を尊敬していますし、いつかスポーツを介して一緒に仕事をするのが夢です。あたたかいご指導に心より感謝申し上げます。

また、今回の卒業論文執筆にあたり、スポーツマネジメント学科の先生方、外部のスポーツ組織の方からも、温かい助言を多数いただきました。この場を借りて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。